

## 一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

平成 26 年 9月 30 日発行

### 【本号のトピックス】

米山武義先生が「保健文化賞」を受賞／各表彰者紹介／  
委員会だより(編集委員会、支部組織・地域保健医療福祉検討委員会)／支部活動だより

## 米山武義先生が「保健文化賞」を受賞



このたび、本会理事の米山武義先生が、第 66 回「保健文化賞」(主催：第一生命保険株式会社、後援：厚生労働省、NHK など)を受賞されることとなりました。

「保健文化賞」は、1950 年に創設されて以来、健康増進、疾病予防などの保健医療分野、高齢者・障害者の保健福祉分野、少子化対策等の多岐の分野において顕著な実績を残された団体および個人を表彰することで、保健衛生の向上に寄与し、この分野における権威ある賞として評価されています。今回、米山先生を含め 10 団

体、個人 5 名が受賞されます。

10 月に贈呈式が開催され、その翌日には受賞者は皇居に参内し、天皇皇后両陛下への拝謁を賜ることとなっています。

米山先生の受賞理由として「要介護高齢者に対する誤嚥性肺炎の予防のため、専門的な口腔ケアに関する基礎的及び臨床的研究を行い、その結果の普及に努め、医療・介護施設における誤嚥性肺炎の予防法の確立に貢献」と挙げられています。まさに適切な評価と思われます。

米山先生には本会より心からお祝いを申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を期待申し上げます。

(日本老年歯科医学会理事長 櫻井 薫)

## 第 24 回学術大会 各表彰者紹介

学会誌 29 卷 2 号に案内されていますが、第 24 回学術大会で下記の先生方が表彰を受けられました。各先生より今後の抱負をいただきました。



### 優秀奨励論文賞(ライオンアワード) 森崎直子先生(近大姫路大学)

この度は、「優秀奨励論文賞(ライオンアワード)」という思いもかけない賞をいただき、非常な驚きと共に大変嬉しく、光栄に感じております。過分な評価を与えて下さった日本老年歯科医学会の先生方に、心より感謝申し上げます。

本研究は国立保健医療科学院の三浦宏子先生、九州

保健福祉大学の原修一先生、山崎きよ子先生と共に実施したものです。虚弱状態にある高齢者の摂食・嚥下機能と QOL を調査し、関連性を分析しております。高齢者にとって口腔機能の良し悪しは、単に身体の一部である口腔に限った問題ではなく、QOL にも密接に関連する重要な要素である可能性が示唆されました。

今回の受賞を励みに、今後も歯科専門職の先生方のお力を借りながら、看護師の立場で多職種連携をはかりつつ、高齢者の口腔保健と QOL の向上に貢献していきたいと考えております。最後になりますが、調査にご協力、ご参加いただいた多くの方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



### 優秀口演賞

渡邊理沙先生(藤田保健衛生大学病院)

このたび、日本老年歯科医学会第25回学術大会におきまして、優秀口演賞をいただき大変光栄に思っております。

本発表では、緩和病棟入院時の口腔問題の出現状況と、死亡までの期間の間に関連性があるか検討しました。その結果、入院から死亡までの期間が短期(31日未満)であった群に舌の粘膜炎、口腔乾燥、易出血性などの出現を認め、セルフケア能力は介助を要するものを多く認めました。これらの口腔問題の出現が口腔ケアの頻度を決める一つの指標となる可能性が示されました。今後は、がん終末期患者の口腔に関連する苦痛を軽減させることや最期まで口から食べる楽しみを維持できるようサポートし、QOLの維持・向上に貢献するとともに、歯科介入の効果について調査を続けたいと考えています。

最後になりましたが、本発表に際してご指導を賜りました先生方に感謝の意を申し上げるとともに、老年歯科医学会の関係各位に深謝いたします。



### 優秀口演賞

村上正治先生(東京歯科大学)

この度は優秀口演賞という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。今回、地域在住高齢者を対象として、サルコペニアと咀嚼機能の関連性について発表させていただきました。近年、介護予防をより効果的に展開するため、要支援・要介護になる前段階である“虚弱”的概念が提唱され、虚弱予防の対策が検討されています。

本報告において、サルコペニアと咀嚼機能に直接的な関連性があったことは、これまでの虚弱予防における関連因子であるサルコペニアや低栄養などに加えて、咀嚼機能といった口腔関連項目も重要であるという根拠になり、包括的な視野でヘルスプロモーションを進めるための一助になるデータだと考えます。今回の受賞を励みに今後は総合研究や介入研究を行い、更に検証していきたいと考えております。



### 優秀ポスター賞

高城大輔先生(昭和大学歯学部)

このたびは第25回学術大会優秀ポスター賞を授与していただき、厚く御礼申し上げます。身に余る光栄

と感激しております。まだまだ歯科医師としても、研究者としても若輩者の身であり、ポスター作成の際に教授をはじめ多くの諸先生方のご指導をいただきました。関係者各位に心から感謝申し上げます。

本研究は地域在住高齢者の咀嚼に関する背景因子を客観的評価と主観的評価の両方から検討したもので、咀嚼機能低下の背景因子を検討の結果、既知である残存歯数や咬合力の他に、骨格筋量の指標である Skeletal Muscle Index(SMI)に有意差が認められ、全身の骨格筋量が咀嚼機能に影響を及ぼしている可能性が示唆されました。この結果が歯科におけるサルコペニア研究の一助となれば幸いです。これからも歯科医療に寄与する研究が出来るよう、日々精進していく所存です。



### 優秀ポスター賞

森下志穂先生(国立長寿医療研究センター)

この度はこのような素晴らしい賞を賜り、身に余る光栄と感じるとともに、大変恐縮しております。研究発表にあたり丁寧にご指導してくださった共同研究者の諸先生、調査にご協力いただいた調査員の皆様に、この場をお借りいたしまして深謝申し上げます。

本研究では、地域在住高齢者5081名を対象とした口腔機能の大規模実態調査を行いました。今回の発表では、口腔機能が加齢に伴って有意に低下すること、基本チェックリストの口腔に関する項目の該当者が75歳以降で大きく増加することを紹介させていただきました。また咬合力の低下は全身の筋力低下と有意に関連していたことから、虚弱やサルコペニアを引き起こし、要介護状態へのリスクを高める要因となる可能性を示唆いたしました。本研究結果が高齢者の口腔機能低下の早期発見・早期対応や介護予防に繋がる一助となれば幸いです。

最後に歯科衛生士として、このような大規模調査に参加する機会をいただいたこと、日本老年歯科医学会において優秀ポスター賞を受賞させていただいたことについて、関係者の皆様に深謝申し上げるとともに、今後さらに老年歯科医学の発展に貢献していきたいと考えております。



## 委員会だより

### 編集委員会

委員長 深山治久

委員 福島正義、飯田良平、北川昇  
外木守雄、戸原玄、那須郁夫、平野浩彦  
眞木吉信、松尾浩一郎、山根瞳

本学会の機関誌「老年歯科医学」は1985年4月に刊行が開始され、現在は年4回編集発行され、本年で29巻が刊行されています。最近、国際的な連携を目指した英文誌が検討されていますが、現在のところ本学会の唯一無二の学術雑誌です。一般的な学術雑誌と同様に、中心は各会員からの投稿で、その他に依頼する総説、毎年の学会の講演後抄録その他から成り立っています。

近年、大学、病院、研究施設、各種のセンター組織に所属する者にとって、発表数ももちろんですが、研究や臨床経験の成果を英文にして英文雑誌、それも impact factor (IF) の高い雑誌に投稿することが大きな業績となります。そのために、学位論文も含めた研究論文が本誌ではなく、他の英文雑誌に投稿される傾向があり、慢性的に本誌への投稿論文数は減少しています。私見ですが、IF の本来の存在理由は、雑誌からの引用数を比較して雑誌の価値を決めるもので、著者の能力を示しているわけではなく、IF は人事考査に使うべきでないと言われています。和文のきちんと書かれた論文を評価する方法が早く出てくることを祈ります。

私たちの目に触れやすく、簡単に理解できる和文の論文はとても意味のあるものです。特に、毎年開かれる本学会の学術大会で発表したことを論文として記録に残すことは大変に有効です。学会抄録より、査読を経た論文は長く読み継がれますし、先生方の業績になるのはもちろんです。

そのために、私ども編集委員会のメンバー11名は、分かりやすく、より良い内容となるように助言をしています。編集委員会では、必要に応じて査読者を外部に求め、できるだけ公正かつ正確な査読を心掛けています。ご不明な点はお問い合わせ下さい。学会で発表したら論文にするという「クセ」をつけて下さい。原著、臨床報告、調査報告、活動報告、ケア・ノート、紹介などジャンルも様々です。ぜひ投稿をお待ちしています。

### 支部組織・地域保健医療福祉検討委員会

委員長 平野浩彦

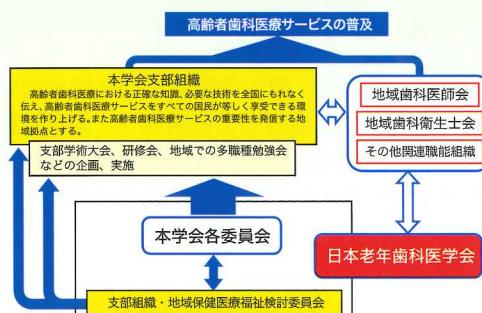
委員 糸田昌隆、梅本丈二、枝広あや子  
大野友久、木村年秀、佐々木健、佐藤保  
高橋一也、畠山桂郎、森田薰、山崎裕

(幹事: 小原由紀)

当委員会は、本学会の運営する事業を日本全国において効果的に推進するために設けられた委員会です。委員会活動の重要なミッションの一つに本学会支部活動の支援があります。支部組織は、本学会と連携をとりつつ高齢者歯科医療における正確な知識、必要な技術を全国にもれなく伝え、高齢者歯科医療サービスをすべての国民が等しく享受できる環境を作り上げることを目的として組織されております。また高齢者歯科医療サービスの重要性を発信する地域拠点となることも求められております。一方でこういった役割を担う支部を一朝一夕に組織することは容易ではありませんが、委員の先生方と尽力して参りたいと思っております。

また本学会支部は、単独県での組織づくりを行うことを目標としておりますが、会員の方々が少ない場合は近隣の支部とブロックを形成し活動することが可能となっております。平成26年6月より、当委員会を水口俊介前委員長から引き継ぎました。その際、全国を出来るだけ網羅できるよう、歯科医師会、病院歯科、行政さらに大学関係者の先生方に委員就任のお願いをさせていただきました。当委員会の与えられた役割イメージを図に示させていただきましたが、当委員会の役割を会員の皆様方にご理解いただき、また御支援も頂きながら委員会活動を進めて参りたいと

思いますので、ご要望などございましたらご連絡いただければ幸いです。



### 支部活動だより

#### 岡山県支部セミナー開催報告

縄稚久美子

岡山大学病院クラウンブリッジ補綴科

岡山県支部セミナーは平成26年6月22日(日)、「訪問歯科診療を始めよう!—敷居を下げるリスク管理はしっかりと—」というテーマで岡山大学病院において開催されました(参加者120名)。

午前中の特別講演では、「さあ、訪問歯科診療を始めよう!」という演題で足立 融先生(ワイエイデンタルクリニック、米子市)に義歯を中心とした訪問歯科診療の実際を

お話しいただき、その間で先生と協働されている歯科衛生士の高場由紀美先生(鳥取県歯科衛生士会)に、歯科医師との役割分担、家族やケアマネなど患者を取り巻く人々への対応も含め熱心に取り組まれているご様子をお話しいただきました。

明日からの診療の予習にも復習にもなる内容で、質疑も大変盛り上がりいました。



また、午後からの実習では、在宅での訪問診療時のリスク管理として、咽頭吸引の手技の実習を岡山大学病院看護部の協力を得て実施しました(24名)。マネキンで解剖の確認とデモを行った後に実際吸引を行い、リスク管理のチェックポイントを確認しました。今回、岡山県支部で初めての実習企画でしたが、今後もこのような日常に役立つ実習が企画できたらと考えています。



### 徳島支部(高知支部)共催セミナーのご案内

日 時：平成 26 年 11 月 9 日(日) 10:10～15:00  
場 所：総合あんしんセンター  
〒780-0850 高知市丸ノ内一丁目 7 番 45 号  
テーマ：超高齢社会の問題点と口腔機能管理の重要性：  
日本老年歯科医学会とともに学ぶ(仮題)

主 催：高知県歯科医師会  
共 催：日本老年歯科医学会 四国ブロック徳島支部、  
(および高知支部)  
森戸光彦(鶴見大学名誉教授) 日本老年歯科医学会理事  
(前理事長)

「超高齢社会の成立と社会学的問題点、ならびに口腔機能管理の重要性」

水口俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野教授  
日本老年歯科医学会理事)

「高齢者の咀嚼と義歯に関する知見(仮題)」

単 位 2 単位

その他 日本歯科衛生士会「認定更新生涯研修」指定  
お問い合わせ：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス

研究部 口腔顎顔面補綴学分野

〒770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15

市川哲雄(代 岩本ゆかり)

Tel : 088-633-7346, 7347

Fax : 088-633-7461

hotetsu1@tokushima-u.ac.jp(1 補綴)

市川 : ichi@tokushima-u.ac.jp



## 学会だより

### 調査ご協力のお願い

平成 26 年度 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業「高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究」(研究代表者 戸原 玄: 東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野) が本年度から開始され、簡易な調査が企画されております。

詳細につきましては学会 Web ページをご参照の上、ご協力のほど宜しくお願い致します。

理事長：櫻井 薫

摂食嚥下リハビリテーション委員会 委員長：植田耕一郎

担当者：戸原 玄

### 新規専門医のご紹介

森 宏樹、小野智史、松尾浩一郎、内藤 徹、弘中祥司、潮田高志、岡田春夫、浅野倉栄、加藤喜久、石川健太郎、光吉 平、宮川雅子、戸原 雄、多田葉子、佐々木力丸、田代晴基、東郷尚美

(以上 2013 年 12 月 12 日付)

寺尾導子、内藤 敏

(以上 2014 年 6 月 12 日付)

(順不同、敬称略)

**編集後記** ニュースレター第17号をお届けします。今回の号から平野前委員長の委員会から引き継ぎ、新委員会でお届けすることとなりました。不慣れではございますが何とぞよろしくお願いいたします。さて今回の号で新しく取り組んだ内容が2点あります。学会賞を受賞した先生方の喜びの声、それと、長年の研鑽を積まれ専門医になられた方々のご紹介です。どちらも、本学会の重要な事業であります。これらを紙面にてお届けすることは会員と学会ともに励みになることでしょう。そのような元気の出るニュースレターの作成に任期まで取り組みたいと委員会では考えております。会員の皆様方には原稿依頼など不意なお願い

が舞い込むこともあるうかと思いますが、その折には何とぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(委員長 河相安彦)

発行人 櫻井 薫

編 集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル402 (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8894 FAX 03-3947-8341